

記 事

研究学会発表記録

昭和31年12月～昭和32年9月の間に学会報告したものは次の通りである。ただし本誌に収録したものは含まない。

I 学 会 誌 発 表

(a) 薬学雑誌

- 嶋野 武, 水野瑞夫, 足立郁夫: トリテルペノイドの研究 (第10報) キソケイの新成分について: ウルソール酸, オレアノール酸 (77, 1038 (1957)).
- 鍛冶健司, 長島 弘: 混合アシロイン類の合成研究 (第3報) メトキシマンデル酸ニトリル類に対するメチル Grignard 試薬の反応 (76, 1371(1956))
- 鍛冶健司: 混合アシロイン類の合成研究 (第4報) 芳香族アルデヒドシアンヒドリン類に対する Methylmagnesium Iodide の反応に及ぼす芳香環の構造の影響 (77, 851 (1957)).
- 鍛冶健司: 混合アシロイン類の合成研究 (第5報) マンデル酸関連化合物に対する MeMgI の反応 (77, 855 (1957)).
- 鍛冶健司: 混合アシロイン類の合成研究 (第6報) 脂環ケトンシアンヒドリン類に対する Grignard 試薬の反応 (77, 859 (1957)).
- 奥田高千代, 小川昌三: アルキル化剤としての Mannich 塩基について (第3報) 2-Acetamidothiazole 類の Mannich 反応 (77, 445 (1957)).
- 奥田高千代, 黒宮喜美子: アルキル化剤としての Mannich 塩基について (第4報) 2-Acetamidothiazole 類の Mannich 塩基によるアルキル化反応 (77, 448 (1957)).
- 松浦 信: 濃オルト燐酸によるカルコンのフラバノン閉環 (第2報) フロログルシンモノメチルエーテル系カルコン類の閉環 (77, 296 (1957)).
- 松浦 信: 濃オルト燐酸によるカルコンのフラバノン閉環 (第3報) フェノール系並びにレゾルシン系カルコン類の閉環 (77, 298 (1957)).
- 松浦 信: 濃オルト燐酸によるカルコンのフラバノン閉環 (第4報) フロログルシンベンジルエーテル系カルコン類の閉環 (77, 302 (1957)).
- 松浦 信: 濃オルト燐酸によるカルコンのフラバノン閉環 (第5報) ポンカネチンの構造について (77, 328 (1957)).
- 松浦信, 松浦 暘: 2'-Hydroxy-3' (及び5')-acetyl-4, 4'-dimethoxychalcone の合成 (77, 330(1957)).
- 松浦 信: ポンカネチンの構造について (補遺) (77, 702 (1957)).

(b) Pharmaceutical Bulletin

Shin Matsuura: The Structure of Cryptostrobin and Strobopin, the Flavanones from the Heartwood of *Pinus strobus* (Pharm. Bull. 5, 195 (1957)).

(c) 越 飛 文 化

小瀬洋喜, 石渡和子: 白川村大家族の栄養調査 (5, 10 (1957)).

(d) 岐阜女子短期大学研究紀要

小瀬洋喜, 高井富美子: 調理の基礎的研究 (第1報) (6, 1 (1957)).

II 学会誌投稿中

(a) 薬学雑誌

高取吉太郎, 山田保雄, 中沢隆一, 新井敏夫: 含弗素有機化合物の合成 (第1報) 5-フルオルベンツイミダゾールの合成.

伊藤四十二, 高取吉太郎, 山田保雄, 森脇千秋: 血糖低下スルフォンアミドの合成 (第1報) I.P.T.D. 関連化合物の合成.

(b) 植物研究雑誌

野村新太郎: *Asclepiadaceae* の乳管について.

(c) 生薬学雑誌

嶋野 武, 野村新太郎: 雌雄異株生薬の剖見 (第1報) *Trichosanthes* 属 (*Cucurbitaceae*).

嶋野 武, 野村新太郎: 雌雄異株生薬の剖見 (第2報) *Rumex* 属 (*Polygonaceae*).

(d) 家政学雑誌

小瀬洋喜, 高井富美子: 調理の基礎的研究 (第2報).

(e) 衛生化学

小瀬洋喜, 北村藤四郎, 森下正三, 金原 昭: 学童の嗜好に関する考察 (第2報).

小瀬洋喜, 北村二郎, 丹羽早起, 稲見敬一, 渡辺喜儀, 林 金恵: 学校環境の基礎的研究 (第1報).

小瀬洋喜, 高木平蔵, 森 末雄, 川口十久, 森下正三: 学校環境の基礎的研究 (第2報).

(f) 越飛文化

小瀬洋喜: 飛騨白川村の民間薬.

III 論文集投稿中

(a) 愛知学院大学国松 豊教授喜寿記念論文集

吉田甚吉: 販売信用の統制について.

IV 学会講演

(a) 日本薬学大会 (1957年4月)

宮道悦男, 小瀬洋喜: 薬史学研究への民俗学的方法の導入

嶋野 武, 野村新太郎: 雌雄異株生薬の剖見 (第3報) *Humulus* 属 (*Moraceae*).

長瀬雄三, 松本 潮, 西川幸枝: ナフトキノン誘導体の有機試薬への利用研究 (第5報) イソナフタザリンによるビスマスの光電比色定量.

小瀬洋喜, 高木平蔵, 森 末雄, 川口十久, 森下正三: 学校環境の基礎的研究 (第2報).

(b) 日本薬学大会生化学シンポジウム (1957年4月)

伊藤四十二, 森脇千秋, 宇井理生, 五味保男, 若林克己 (東京大学薬学科), 高取吉太郎, 山田保雄 (岐阜薬科大学): 内分泌腺の機能に影響を及ぼす物質——特にチアジアゾール誘導体と膵臓内分泌.

(c) 日本薬学会東海支部例会

嶋野 武, 水野瑞夫, 鈴木由美子: 濾紙光電計による植物中のルチンおよびフラボン誘導体の簡易定量について (1957年7月).

- 長瀬雄三, 河合 洋: イオン交換樹脂を用いる医薬品分析法の研究 (第3報) サリチル酸ナトリウム, 臭化カルシウムおよびブドウ糖注射液の定量 (1957年1月).
- 長瀬雄三, 河合 洋, 村田 穰: イオン交換樹脂を用いる医薬品分析法の研究 (第4報) イクタモールの定量 (1957年1月).
- (d) 日本生化学会 (1957年7月)
- 石黒伊三雄: 動物皮膚組織のリボフラビンと蛍光物質について.
- 杉浦 衛: 麹菌の生産する紫色蛍光物質について.
- (e) 名古屋医学会 (1957年5月)
- 杉浦 衛: 家兎血液中の蛍光物質について.
- (f) 日本生薬学会 (1957年9月)
- 嶋野 武, 野村新太郎: 雌雄異株生薬の剖見 (第4報) *Cannabis* 属 (*Moraceae*).
- (g) 日本ビタミン学会
- 杉浦 衛: P^{32} -FMN, P^{32} -FAD の簡易調製法とその利用 (1957年5月).
- (h) ビタミンB研究委員会
- 杉浦 衛: 血液中の蛍光物質とその本態 (1957年4月).
- 杉浦 衛: 麹菌の蛍光物質の意義について (1957年9月).
- (i) 第2回日本家政学会東海支部総会 (1957年5月)
- 小瀬洋喜, 高井富美子: 調理の基礎的研究 (第3報).
- (j) 愛知・岐阜・三重第3回英語談話会 (1957年2月)
- 長谷川謙三: 英語々彙に表れた古代中世人の科学思想.